第11回（全12回）

認知症の今

DEMENTIA NOW

「家族の会」や多くの人との出逢いから仲間がいる大切さを知ったという三重県支部中川絵里子代表による、支部の取り組みの報告です。つどい、カフェ、家族教室を基本に据え、さらに県の求めることを支部らしくアレンジして、委託事業・コールセンター、チームオレンジ（オレンジチューター）、ピアサポート支援にも取り組んでいます。多くの伴走者、世話人ならではのコーディネート力で、点が線につながりつつある“今”の報告です。

伴走してくださる皆さんへ

三重県支部代表　中川 絵里子

感謝

三重県は 2016年の認知症サミットin Mieで「認知症の人と共に暮らす共生社会」を宣言しました。その頃、私の夫は若年性認知症と診断され、診断後の本人方は、仕事や毎日の生活をどう過ごしているのかと考えました。三重県認知症サミットでご本人の講演があると知り、前支部代表下野和子さん、髙見国生前代表にお願いし、対面したのが仙台の丹野智文さんです。認知症を隠さず、仕事や講演活動をすると知りました。また「RUN伴」に参加したり、つどいや認知症カフェに参加してたくさんの方と出会いました。その方々、全てに感謝します。この一人でない。ずっと離れず支えてくれる仲間達がいるという感覚を、一人でも多くのまだ出会えていないご本人や家族に感じてもらいたいです。

行政や関係機関との連携

支部は地区つどいと認知症カフェ、認知症疾患医療センターで家族教室を開催中です。家族教室は県立病院職員が交代で講義し、その後世話人の進行で交流会です。定期的な打合わせで、家族が聞きたいことなど意見します。冬はスキンケアについて薬剤師から軟膏の塗り方等、学びました。アンガーマネジメントという自分の中の怒りとどう付き合うかということも学びました。

それを「家族の会」のSNSに載せた所、他支部会員がZoom参加を希望され、職員が柔軟に対応してくださり、２度実現しました。

県、市、社会福祉協議会の委員は少しずつ増えました。本人や家族の代弁者として身が引き締まる思いで発言しますが、オンライン

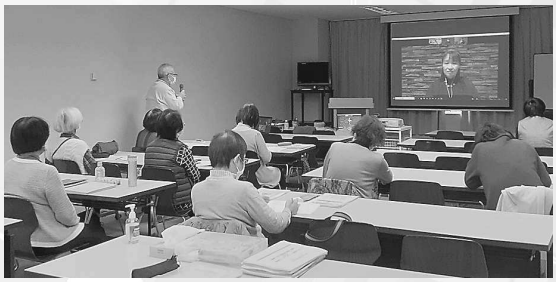
の時は県内遠方の方が出席し、久しぶりにお顔を拝見でき、嬉しく顔が綻びます。世界アルツハイマーデー啓発は、県立図書館で、県内市町のケアパスを揃えて展示しました。

県立図書館で世界アルツハイマーデーの啓発展示

県の委託事業は三重県認知症コールセンター、チームオレンジ（オレンジチューター）事業、ピアサポート支援活動です。

コールセンター研修で本部電話相談員、芝山由美子氏の講義受講。時間延長した質疑応答があり、有意義な時間を仲間と共有できたのは私の財産の一つです。

一昨年、チームオレンジ立上げに２つの市をモデルとし、世話人が開催する「つどい」や認知症カフェを受講生の研修の場とし、ご本人の興味のあること、やってみたいことを中心に実現しました。『将棋がしたい』という希望を会員が世話人となって認知症カフェを開始。市や地域包括の方が啓発の相談に来たと世話人を訪ねてくることもあります。地域の市民ボランティアが入会し、新しい拠点となっています（ご本人は時々自転車で出かけてカフェの日を忘れることもあるそうですが…）。又、一人暮らしのご本人へ近所の方が料理を届けたりと、小さな地域の取り組みとして世話人ならではのコーディネート力により浸透していけたらと思います。



コールセンター研修の芝山氏の講義

プロフィール

中川 絵里子

三重県支部代表

◆夫が若年性アルツハイマー型認知症と診断されたのをきっかけに、『毎日ご本人方はどういう生活を送っているのだろう？』と思い、2016年に「家族の会」に入会。2017年に支部代表に就任し、現在に至る。

ピアサポート支援活動は「家族の会」のつどいをそのまま、県の事業にあてはめていき計画します。県の求めることを支部らしくアレンジします。

後から知ったことですが、会うといつも応援してくださり、私がボランティアだと思っていた方は実は県の職員でした。３年目にして県庁内でお目にかかり、驚いたことがありました。

新しいつながり

県立美術館から認知症の人と家族が美術鑑賞をし、誰もが利用しやすい美術館作りに協力をと依頼がありました。文化庁の取り組む美術館の事業です。

今後、認知症サポーター養成講座を美術館員で実施したらどうかと県や市に提案しました。全国研究集会in三重の経験から、10月予定の日本認知症グループホーム協会全国大会の委員になりました。市町がつどいの会場やWi-Fiを無料で提供くださる地区ができ、Zoomつどいの練習ができました。

伴走者と共に、点が線へゆるりとつながりつつある三重県支部の今です。

次月号は、樋口恵子氏（東京家政大学名誉教授・高齢社会をよくする女性の会理事長）の『認知症の“今”、そしてこれから（仮題）』です。

追悼特集
長谷川和夫顧問を偲んで

長谷川和夫先生は、私たち「家族の会」にとっては、会を組織としていつも見守り励ましてくださるだけでなく、会報にも目を通し、一人一人の会員の心にも寄り添い、気遣ってくださる父親のような方でした。
先生、本当にありがとうございました。

涙がとまりません
長谷川和夫先生を偲んで

「家族の会」前代表理事　髙見　国生

1994年に顧問制度を設けた最初からの顧問であった長谷川和夫先生が亡くなった。とっても悲しくて残念です。先生は「家族の会」が誕生する６年も前に、「桜、猫、電車」などで知られる認知症の簡易検査方法（長谷川式スケール）を開発された先駆者で、一貫して我が国の認知症医療と社会的理解の推進に尽くされました。

顧問としては、2004年のADI国際会議の組織委員長として会議の成功と「家族の会」の社会的地位の向上に尽力していただきました。また日頃も何かと気にかけていただき、総会の前などには「陣中見舞い」としてクッキーの箱が届いたこともありました。昨年の総会には、病の身ながら会員へのビデオメッセージを送ってもらったと聞きました。

認知症介護研究・研修東京センター長のときに訪ねて行き、職員食堂で昼食をご馳走になったこともあり、食後のコーヒーを飲みながら先生の生い立ちや人生を聞かせてもらいました。私が「家族の会」の顧問を退任したときには、「誠に御苦労様でした」と直筆の手紙をいただきました。

社会的地位も名誉も実績もある先生でしたが、少しも偉ぶらない、庶民的でユーモアのある人柄でした。同時に顧問になってもらった早川一光先生に続く訃報で涙がとまりません。

長谷川和夫先生、ありがとうございました

「家族の会」顧問　中村　重信

先生にお会いしたのは1980年頃だったようです。認知症の門外漢を温かく迎えてご指導頂き、一緒に「痴ほうの百科」という本を編集し、1989年に出版しました。その後も、学会、研究会や呆け老人をかかえる家族の会などで親しくさせて頂きました。2004年10月、京都の国際会議場で3,000名の参加者とともに第20回アルツハイマー病協会国際会議が開かれました。その会長を髙見国生「家族の会」代表（当時）がされ、長谷川先生が組織委員長、私が副組織委員長でした。「家族の会」としては慣れない国際会議だったので、「ぽ～れぽ～れ」には毎号、国際会議について私が英会話も交えて雑文を掲載しました。この会議を長谷川先生は見事に組織され、外国の方々はじめ日本の参加者にも大変好評でした。なかでも、認知症の人自身である越智さんが自分の体験を述べられたのは、わが国で初めてのことでした。それを契機に「ぼけ」は「認知症」に変わりました。ところが、昨年の年賀状で施設にお住まいの旨伺い、昨年４月に発刊しました拙著「認知症の人が見る景色」に対して、心温まるお言葉を頂きました。それなのに、こんなに早く逝かれるとは思いませんでした。安らかに、お休みください。

心からのお悔やみを申し上げます

元ADI議長
国立ニューサウスウェールズ大学老年精神医学教授
認知症共同研究センター理事長
ヘンリー・ブロダティ

長谷川先生とは何度も会議でご一緒しました。先生はいつでも、紳士的で礼儀正しく、高名な学者であるにも関わらずとても謙虚なかたでした。

日本で、まだ、認知症について語られることがなかった時代から、常に先駆的なお仕事をされたことを、心から尊敬しています。

先生が開発した長谷川式認知症スケールは、世界的に知られています。又、パーソンセンタードケアや認知症にやさしい地域づくりを進めるためにも大きな功績を残されました。

そして、なにより、先生がご自身の認知症と向き合い、認知症になっても前向きに生きることができるということを示してくれたことに心からの敬意を表します。

ご遺族の皆様、ご同僚の皆様、そして日本中、世界中におられる先生のご友人の皆様に心からのお悔みを申し上げます。

「長谷川和夫先生」の大看板を掲げて、第24回全国研究集会大盛況…天国の先生に感謝

「家族の会」奈良県支部副代表　木村　秀子

奈良県支部結成以来一番の自慢は、なんと言っても「家族の会」主催の「第24回全国研究集会」の開催担当県となり、その基調講演者として、この世界の第一人者である長谷川和夫先生を、お迎えできたことです。

その日、2008年10月19日は、定員880人を遥かに超える1000人以上の参加者を全国から迎えての開催となりました。看板プログラムの基調講演では、「認知症ケアの極意を語る」との演題で、さすが長谷川先生、実践的で分り易く、そのユーモアにあふれたお話しぶりで、会場は感動にあふれ、大いに盛り上がりました。

また、更に先生には、最後のプログラムである「全体討論」にもご登壇いただきました。幕が上がり、舞台上にご着座の先生をご紹介させていただくと、会場からヒソヒソとざわめきが、司会の私は「さすが、長谷川先生にはファンが多いわぁ」と自分勝手に感心しておりました。がしかし、な、なんと机に貼った垂れ紙の先生のお名前が、間違って書かれていたのでした。

大喝采で終了後「先生は、やっぱり二枚目大スターなので…すみません」と、何ともめちゃくちゃな言い訳にもならない私の言葉に、先生は「そうでしょう。そうでしょう。よくそう言われます」と寛容に微笑み、握手してくださいました。

このコロナ禍の2021年４月ビデオメッセージでは、腕を力強く突き上げられて「元気で頑張りましょう」と私たちにエールを送ってくださった先生は、ご自身を「『はせがわ』は長い谷の川、『かずお』は平和の和の夫です」と紹介されていました。

そうです。この世に在っても、天国に在っても変わらず長谷川先生は、一番平和を願う二枚目の認知症専門医に間違いありません。今は、再び天国でお会いする日、あの日のお礼を申し上げ、その後の奈良県支部の活動をご報告できたらと願っております。―拝謝―

長谷川先生を囲んで ～2008年10月19日

本人登場
私らしく仲間とともに
No.196

全国の仲間に会いに行くのが今の大きな夢

島田（しまだ）　豊彰（とよあき）さん　～その2～

49歳・徳島県支部

島田さんは、診断後、職場の理解のもと、徳島県立埋蔵文化財総合センターで、中世土器の整理をし、遺跡報告書作成に励んでいます。徳島県支部代表で若年性認知症支援コーディネーター大下直樹さんの聞き書きを先月に続き掲載します。　（編集委員　松本律子）

「家族の会」に出会って救われた

認知症になったことは、そんなに悲観するものではないなどと、楽天的な私も、診断当初は落ち込みました。妻が相談に行って、徳島県支部の仲間に出会えたことは、本当によかったと思います。「家族の会」がなければ、自分はどうなっていたかと。

本人交流で、趣味の燻製を仲間と楽しんだり、ピザ窯を築いてピザを焼いたり。仕事以外で、いっしょに楽しむことのできる仲間がいることは、最高です！

おいしい燻製できたかな

県外に行けないのが困る…

認知症に関すること以外で、県外に行くことができないのが困りごとかな。冬になると、毎年、オケいっぱいのキムチを作るのですが、材料を神戸の中華街に仕入れに行けないので、どうしようかなと考えています。県外の考古学の研究会に参加できないことも困っていますが。

「マスクしてよー」（ヤギ）

夢はいっぱいある！

妻からは「定年まで働いて～」と言われています。退職後は農業がしたい。それから、もし叶うのであれば、エジプトかイスラエルの遺跡の発掘調査に携わってみたいです。学生時代に、現地の発掘に従事したことがあるので。

そして、今の大きな夢は、全国の当事者に会いに行くこと。各地の美味しい酒を飲んで盛り上がりたいですね。もちろん、飲むだけでなく情報交換がしたいです。全国の仲間とお会いできるのを楽しみにしています。

ラン伴*でハイタッチ

＊認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント

情報コーナー

本人交流の場
（詳細は各支部まで）

北海道◉3月7日㈪13:15～15:30／北海道の本人の「つどい」→かでる2.7
宮城◉3月3・17日㈭10:30～15:00／本人・若年認知症のつどい「翼」→南光台市民センター
山形◉3月19日㈯13:30～15:30／本人のつどい→置賜総合文化センター
埼玉◉3月19日㈯13:30～15:30／若年のつどい・越谷→中央市民会館
神奈川◉3月13日㈰13:00～15:30／本人家族のつどい→二俣川地域ケアプラザ
静岡◉3月8日㈫10:00～11:30／若年性のつどい→富士市役所
愛知◉3月12日㈯13:30～16:00／元気かい→東海市しあわせ村
京都◉3月27日㈰13:30～15:30／若年認知症本人のつどい→ハートピア京都
和歌山◉3月13日㈰13:00～15:00／若年性認知症交流会→ほっと生活館しんぼり
広島◉3月12日㈯11:00～15:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
徳島◉3月19日㈯13:30～15:30／縁の会→県立総合福祉センター

新型コロナウイルス感染の影響により、変更ないし、中止となる可能性があります。

会員さんからのお便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしています！
〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3
岡部ビル2F
〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-205-5104
Eメール office@alzheimer.or.jp

ぽーれぽーれ 11 月号を読んで

面会の重要性をわかってほしい

●山形県　Aさん　60歳台　女性

まず2021年度支部代表者会議アピール、私も全く同感です。この国は、高齢者に対してだけでなく、すべての国民に対して「何があっても自己責任」との冷たい姿勢が一貫していると感じ、とても寒々しい気持ちになります。私は「冷たい社会」より、「温かい社会」が好き。「家族の会」が目指している、「認知症になっても安心して暮らせる社会」は、みんなが安心して暮らせる温かい社会、そんな社会実現に微力を尽くしたいと思います。

そして、「会員からのお便り」欄の「心の張りが失われていく」Ｃさんのお気持ち、とてもよくわかります。私も両親が介護施設に入所していた頃、ほぼ毎日面会に通い、コミュニケーションを取ったり、食事の介助をしていました。母は、2017年に亡くなり、父も2020年９月入院先の病院で亡くなるのですが、2020年２月頃よりコロナ感染が出始め、施設は面会禁止に。ガラス越しの面会はＣさんのように２週間に一回どころか、２か月に１回程度、結果的に父が入所していた間、３回ガラス越し面会しましたが、見る度にぐっと認知症が進んでいることがハッキリわかりました。

「面会」という刺激が無くなった父は、認知機能が衰え、ガラス越しの私の顔を視野に入れることさえ難しそうでした。それでも「ほら娘さんきてくれたよ」と父と私を「対面」させようと一生懸命声をかけてくださる職員さんもおられ有難かったです。一方で、「業務で忙しい中、ガラス窓の所まで連れてくるのが大変」とあからさまに嫌な顔をされたことも。帰りのバスの中では、「父は私が面会にこなくなって寂しがっているに違いない」「施設の職員は面会の重要性についてわかっているんだろうか」等、悔しさ無力感など色んな思いがぐるぐる巡って、降りるべきバス停を通り過ぎそうになったこともしばしばでした。

しかし、島根県の施設職員の方の投稿に、厚労省からの通達は、「絶対面会禁止令」ではなかったとありました。そして≪代え難い家族との触れあい≫を読み、心の中が温かいもので満たされていくのを感じました。「家族の力の大きさ」「面会は、本人にとっても家族にとっても大切なこと」に気付いて下さる施設があり、介護職員がおられる…希望です。

できれば、この施設の先進的な経験を介護関係者の研修会や全国研究集会などで報告していただき、全国に広めていただければ、認知症の人や家族は心強い思いになるのではないでしょうか。

自責の念が強く出て

●山口県　Bさん　60歳台　男性

一度入会していましたが、諸事情で一度退会しました。今回は母の介護も10年を超え、仕事（自営業）との兼ね合いが難しく、介護する自分の都合に合わさせているだけではないのか、母の気持ちを考えていないのではないかと自責の念が強く出てきて、解消することもできず悩んでおります。何とか、家にできるだけ居させてあげたいが、どうしていけばいいのかわからなくなってきた。父と姉は死去し、私ひとりですべて看ています。

強要されたシングル介護

●広島県　Cさん　50歳台　男性

私の意思に反して、強要された在宅のシングル介護でした。母は2010年に要介護１と認定されて介護保険のサービスを利用し始めたのですが、診断がおりるずっと前から周辺症状が酷かったので、要介護３になって特養に入るまで、通院のための外出はおろか、電話する時間も十分にありませんでした。

心が重いです

●富山県　Dさん　60歳台　男性

５年程前にアルツハイマー型認知症と診断された妻は、嚥下障害、拒食、拒薬、不眠になり11月中旬より入院中です。「家族の会」のことは早くから知ってはいました。早く入会して、少しでも情報を得て、参考になることがあり、症状が抑えられたのではないかと後悔しています。もっとできることがあったのではと、心が重いです。

本人に合わせた生活

●千葉県　Eさん　80歳台　女性

夫は７年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。介護は毎日が本人に合わせた生活で、戸惑ったり、自分が精神的におかしくなったりして、なんとかしなくてはと思っています。「家族の会」に入会して、いろいろな人の意見を聞いて、気持ちを和らげることができたらと思います。

予想外の事態

●沖縄県　Fさん

妹は入居しているグループホームで転倒して大腿骨頸部骨折。入院して金属で補強する手術のため、慌ただしく入院の準備！入院のための資料には、コロナ感染防止のため原則「面会禁止」、介助などの付き添いも禁止でした。

10日程の入院とその後２カ月間のリハビリ治療とのこと。妹は大丈夫だろうか？とにかく手術は一人で頑張ってもらうしかなく、祈る気持ちでした。リハビリ治療しなければ、車椅子になるかもしれないとの主治医のお話でした。２カ月間も知らない環境で、家族の付き添いもない。知らない人々の中で、痛い思いをしながらリハビリ治療して、精神的にもつのか、認知症が進行していかないのかの方が心配でした。

考えすぎかもしれませんが、果たして２カ月後、グループホームに戻れるのか？本人にとって何が一番良いのか？リハビリか、居住地か、悩みに悩んでグループホームの責任者に相談しました。退院後、グループホームでの職員による見守りとリハビリが可能とのことでした。車椅子になってもいい！今まで通り、馴染みがあり、居心地のいいことが本人にとって一番かもしれないとお願いしました。

その後、面会もできない中、グループホームから妹の動画が届きました。ニコニコ笑顔で立って、一人で歩いている姿でした。退院してグループホームに戻って10日程です。涙が出ました。心から感謝いたします。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳台」等で表記しています。